

中島ゆみ子「この1年を振り返って」

昨年の東日本大震災から1年が経ちましたが、被災地では、未だ厳しい生活を余儀なくされている方達もおります。復興対策の政府の遅れや義援金がなかなか被災者に届かなかったなど、国の考えが被災地とあまりにも大きな差があることに腹立たしささえ覚えました。

昨年7月、復興7年が経った新潟県の山古志地区(旧山古志村)を視察しました。震災直後、神戸の震災でボランティアを経験した人から、「仮設住宅ができる頃には自殺者が増える。お金は明日の希望につながるものだから早めに配った方がいい！」との意見を参考に、役場では、その時の義援金を即座に一世帯10万円、一人に対して3万円を配ったそうです。お陰で自殺者は出なかったと聞いていました。東日本大震災では多くの自殺者を出してしまいましたが緊急の時は素早い判断、強い信念をもったリーダーシップが必要だと改めて感じたものです。7年経った山古志は、山は緑に覆われ、当時の面影はありませんでしたが、土石流で流された家屋や河川がせき止められた様子は、当時の恐ろしさを忘れないように現在も残されていました。

今回の震災では、足利市も約3,600件以上もの家屋の損害等があり、災害指定地区となりました。今後の対策として、地域防災計画やハザードマップの見直しや防災倉庫や備蓄品を増やすなど、3月議会では危機管理に対する予算計上もされたところです。現在の防災倉庫は、けやき小・葉鹿小・山辺小・毛野小・北郷小と総合運動場の6カ所ですが、足利赤十字病院の西側の国の防災公園の所に建設予定です。備蓄品は、乾パンあるいはアルファ米やミネラルウォーター、毛布、防水シートがあり、今後それらの数も増やしていくことになりました。「災害は忘れた頃にやってくる」

「備えあれば、憂いなし」、先人のこの二つの言葉により重みを感じ、それを活かし市民の安心・安全に備えることが私の使命だと再認識したものです。

私は平成21年から「両毛クリスマス・バルーンフェスタ」の仕掛人としてイベントに関わっています。順調に2年間開催してきましたが、今年、商工会議所の事情により事務局辞退となって、一時開催が危ぶまれましたが、「足利を元気にしたい、子ども達に夢を与えたい」という、多くの市民有志の協力と寄付等で、3月11日復興祈願として改めて「両毛バルーン・スカイフェスタ」を開催することができました。

来場者は約5,000人、バルーン係留、ヘリコプター体験搭乗や消防、自衛隊装甲車での写真撮影、ラジコン、会場広場などで楽しみ、受付でもらった風船を片手に持った子ども達で賑わっていました。



満面笑みの家族連れの表情を見ると、開催できて良かった。これはずっと続けなければと、ここまで一緒にやってきた協力者、仲間の顔を想い、熱くこみ上げるものを抑えることができませんでした。そして、子ども達の笑みが絶えない街は素晴らしい、足利の街をもっともっと明るい街にしたいと決意を新たにしました。ご協力いただいた皆さんに感謝するとともに、次回、新たな協力者の輪が広がり、足利の一大イベントに成長することを願ってやみません。

この1年間、4回の市議会一般質問で皆さんのご意見を代弁する事ができました。また、介護・子育て・教育・就職・生活の相談など数多く受けました。これからも気軽に遠慮なく相談して下さい。

私は、一つの事を成し遂げた後、喜んで下さる皆様の笑顔を見るのが私の喜びですから…。



3月議会定例会一般質問

1. 市長の政治姿勢について
 - (1) 超高齢化・人口減少社会と平成24年度予算編成
2. 競馬場跡地活用事業について
 - (1) 芝生広場構想 (2) こどもの施設構想

戦略的な予算編成を！

～主な質問内容～

◎平成24年度予算についても全体的に歳出の抑制が考えられる。文教医療都市を目指した施策の具現化を図る中で、本市として戦略的特徴をどのようにとらえているのか？

◎先日発表された国立社会・人口問題研究所の推移によれば、50年後の日本の人口は4,000万人以上減少し、働き盛りや若者が居なくなり、8人に3人が高齢者と言う人口構成になると示された。本市人口も例外ではなく、年々1,000人から人口が減少し、高齢化率は25.3%で4人に1人が高齢者である。平成24年度の予算編成において、これらの点についてどのように考えたのか。中長期に渡る予算編成を踏まえつつ、財政状況の試算がされているのか聞きたい。また、財政調整基金の残高確保をどのように考えていくのか聞きたい。

◎平成23年10月、総務省は実質公費比率を公表した。本市の位置付けは上位にあり優良であった。本市、行政改革大綱実施計画において、平成27年度で市債残高910億円を目標としている。「子どもにツケを残さない」と言うことは重要な事だが、市債残高の状況を見ると、削減額が平成23年度からそれ以前に比べ少なくなっている。削減額の推移をどのように考えているのか聞きたい。

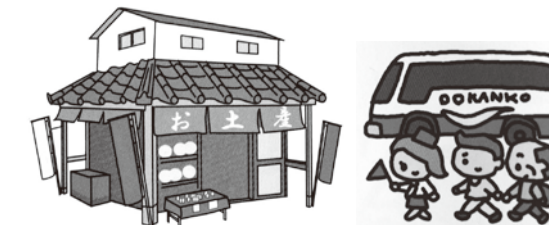
人が賑わう、元気な街、足利市！

～私の提言～

今年1月1日、足利学校参観者倍増計画キックオフ宣言式を開催しました。昨年は震災の影響もあってか、若干少なく約16万人の参観者がありましたが、8年間で2倍に増やそうと様々な取り組みをしています。

今見えていることは、足利学校のソフト面を活かした取り組みですが、このような計画の中で足利学校に来てもらうことだけでなく、足利学校周辺整備も含め活性化を考えると重要で、足利市が豊かになる一つの要因であると考えます。参観者倍増計画を8年間とするならば、毎年範囲を区切り、ある程度の予算をつけて統一感のある景観やどのような業種の店舗ゾーンを造るか等思案し、回遊性のあるまちづくりを中長期的に考えて整備していきます。足利学校周辺も8年間でどれだけ変わるでしょう。足利市の核となる足利学校で活かせるソフト面と周辺整備のハード面のバランスが中心市街地活性化として大切と考えます。現状の予算配分には小さい所に視点を向けて予算が活かされておらず戦略的配分として考えられませんか。

鎌倉の鶴ヶ岡八幡宮のように小町通りだけでなく、周辺の路地全体に観光客が回遊して面的に賑わいがあると、議会を初め多くの場で提言しています。回遊性のあるまちづくりの成功例を聞くと、観光関連の店だけでなく普通のコロッケ屋さんやお好み焼き屋さんも繁盛していると言いました。住民が元気になるまちづくり、ぜひ戦略的な予算配分で人が賑わう街づくりを実現したいものです。



お気軽にご一報を！ 出前懇談会

●市政報告！私の近況報告！お茶の間、井戸端会議へお電話一本で参上します。あなたの夢、希望もお聞かせ下さい。